

平成28年度 学校評価計画

徳島県立ひのみね支援学校

徳島県教育基本目標	『とくしまの教育力を結集し、未来を創造する、たくましい人づくり』 ～県民とともに考え、ともに育む オンリーワン教育の実現～	
学校経営基本方針	「三つの保障」「二つの指導」「一つの約束」 三つの保障：「学習の保障」、「安全の保障」、「人権の保障」 二つの指導：「人間性」と「専門性」の融合、「規律と礼節」 一つの約束：「地域や保護者に開かれた学校」	
本校の教育目標	「徳島県教育振興計画」に基づき、児童生徒一人ひとりの個性と人権を尊重し、自立と社会参加の促進に向けて、自己実現に努める心豊かな人間を育成する。	
本年度の重点目標	1 ICF の理念を基本に、キャリア教育支援プログラムを活用し、一人ひとりの児童生徒の実態に応じた具体的な指導内容を実践する。 2 ICT を授業の中で効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、児童生徒の学力向上につなげていく。 3 ISO の活動を中心に、ユネスコスクールとして ESD を推進し、地域の人々や自然環境とつながり、かかわる力を育成する。	
	平成28年度末総合評価	平成28年度末総合評価
		次年度への課題

重点目標1 ICF（国際生活機能分類）の理念に基づき、キャリア教育支援プログラムを活用し、授業力向上をめざす。					
自己評価				学校関係者評価	次年度への課題
重点課題	重点目標	活動計画と評価指標	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
【学力向上検討委員会】 ○自立と社会参加の基盤となるコミュニケーションについて、一人ひとりの児童生徒に育てたい力や課題を明らかにし、個別の指導計画に位置付けながら、教員の専門性を高める。	○全教員が各グループで事例研究を行うことを通して、コミュニケーションに関する指導力を高め、各児童生徒の指導に活かす。 [I・II類型] ・状況を考えながら、自分の気持ちや考えを相手にわかるように伝える。 [III・IV類型] ・身近な人に自分なりの方法で、気持ちをわかるように伝える。	<活動計画> ①グループ内の児童生徒1名に対して事例検討会を、年3回以上実施する。 ②卒業後の姿をグループ内でキャリア教育支援プログラムを活用しながら共通理解し、指導目標を確認する。 ③実態把握や指導方法等について、専門家のアドバイスを年2回受け、アドバイスをグループ内で共通理解する。 <評価指標> ○コミュニケーション課題に関する個別の指導計画の各学期の目標で「目標に十分達した」、「目標に達した」という評価を80%以上とする。	<活動計画の実施状況>	総合評価 <評定> ----- <所見>	
			<評価指標の達成度>		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：全く達成できなかった

重点目標 2 ICT（情報通信技術）の推進による外部の専門家を活用した授業改善					
自己評価				学校関係者評価	次年度への課題
重点課題	重点目標	活動計画と評価指標	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
【情報・防災課】 ○ ICT機器を授業で活用したいと考えている教員が多い。活用方法の検証にまで至っていない。 ○ 児童生徒の実態把握として、記録媒体を活用したいが、その活用方法に関して詳しく知りたいという声が上がっている。	○ ICT機器の積極的な活用を推進し、授業改善を図る。	<活動計画> ①記録媒体を活用した、児童生徒の実態把握についての研修・事例発表等を年間3回以上実施する。 ②ICTを活用した研究授業を3事例行い、その活用法について考察する機会を設ける。 <評価指標> ①研修を3回以上実施する。 ②研究授業・研究討議を年間3回以上実施する。	<活動計画の実施状況>	総合評価	
			<評価指標の達成度>	<評定> ----- <所見>	

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：全く達成できなかった

重点目標3 ISO（新学校版環境ISO）の推進を通じたESD（持続可能な開発のための教育）への取組					学校関係者評価	次年度への課題 今後の改善方策
重点課題	重点目標	活動計画と評価指標	自己評価		学校関係者の意見	
			活動計画	評価		
【地域支援課】 ○新学校版環境ISOの活動を推進する必要がある。	①新学校版環境ISOの活動の推進と見直しを実施する。 ②児童生徒が取り組める活動を提案する。 ③保護者と連携した活動を充実させる。 ④地域と協力した校内環境づくり	<p><活動計画></p> <p>①-1 新学校版環境ISO推進委員会を実施し、計画や活動内容について確認・協議する。 ①-2 管理職による内部評価を実施する。</p> <p>②委員会活動で児童生徒が取り組むことができる活動を取り入れる。</p> <p>③-1 ペットボトルのキャップ集めのリサイクル運動を、保護者と連携して実施する。 ③-2 学校周辺のゴミ拾いの活動を集まりやすい時間に設定し、児童生徒・保護者・教職員が協力して実施する。</p> <p>④みなと高等学園の生徒と本校生徒が協力して花を植える等の校内環境整備を実施する。</p> <p><評価指標></p> <p>①-1 新学校版環境ISO推進委員会を学期に1回実施し、計画や活動内容について確認・協議する。 ①-2 管理職による内部評価を年2回（9月・2月）実施する。 ②委員会活動でペットボトルキャップ回収の呼びかけやキャップ回収量を量る活動などを児童生徒が行う。 ③-1 ペットボトルのキャップ集めのリサイクル運動で、毎月5Kg以上を回収する。</p>	<活動計画の実施状況>	総合評価		
			<評価指標の達成度>	<p><評定></p> <p>-----</p> <p><所見></p>		

	③-2 学校周辺のゴミ拾いを 実施する。県が推進して いる「ごみゼロの日」ボ ランティア活動に児童生 徒、保護者、教職員が協 力して実施する。 ④みなと高等学園の生徒と 校内環境整備を年2回以 上実施する。			
--	---	--	--	--

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：全く達成できなかった